

文房四宝で つながるまち



文房四宝とは、書において欠かすことができない「筆」「紙」「硯」「墨」の4つを指し、古くから大切にされてきました。本市は書道用紙の全国シェア7割とも言われる

「日本一の書道用紙のまち」です。今回、筆の生産量日本一を誇る広島県熊野町を、書道パフォーマンス甲子園高校生運営チーム「SHIPS」の2人が訪ねました。



広報班 佐藤ちひろ 班長 (三島高校3年)



広報班 福崎颯希 副班長 (川之江高校3年)



メイクアップアーティスト御用達の化粧筆

みなさんは「熊野筆」というブランドをご存知でしょうか。2011年にサッカー女子日本代表

「なでしこジャパン」が国民栄誉賞を受賞した記念に贈られたのが、熊野筆の化粧筆でした。180年もの歴史を持つ熊野筆。農閑期を利用して奈良地方から筆や墨を仕入れ、それを売りさばっていたことがきっかけとなって筆づくりが始まったそうです。現在では、書筆や画筆に加えて化粧筆の生産が盛んで、町民の1割にあたる約2000人が熊野筆に関わる仕事に就いていると言われています。

02



200頭分の馬の尾で作られた世界最大の大筆

熊野町には、熊野筆ブランドを全国に発信する「筆の里工房」という施設があります。館内には、筆の歴史と文化を伝える資料のほか、重さ約400kgの世界一大きな筆や書画家の愛用筆、美しい装飾の筆など貴重な品々が展示されています。また、伝統工芸士による筆づくりの実演を見ることができ、ほか、伝統工芸士から直接指導を受けながら、世界に一本のオリジナル筆を作ることでもあります。更には、書筆から化粧筆まで約1500種類を販売する筆ショップも併設される、筆の魅力が詰まった日本で唯一の筆ミュージアムです。

筆の里工房

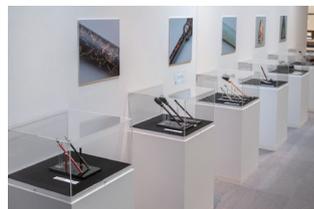
広島県安芸郡熊野町にある「筆の未来を提案する」ミュージアム。年間を通して企画展を開催するほか館内には筆のセレクトショップを併設する。詳細はこちら→



筆づくりの工程のうち「衣毛巻き」と「仕上げ」の2つを体験



試し書きもできるセレクトショップ。運命の本が見つかる



筆の歴史が美しく展示されたギャラリー

03



實森得応さん さねもりとくおう

1974年生まれ。曾祖父の代から続く熊野筆工房「實森誠実堂」の四代目。大学在学中に修行を始め、2013年に伝統工芸士の認定を取得。書き味だけでなく、見せ方をも追求し、筆の新たな価値を生み出す若き匠。

熊野筆と書道パフォーマンス甲子園との関わりは深く、優勝(文部科学大臣賞)の副賞として、熊野筆事業協同組合から大筆が贈られています。「書道パフォーマンス甲子園の影響のおかげで、大筆の需要があります。ただ、熊野町で大会を開催できなかったことが悔しい(笑)」と話してくれたのは、副賞の大筆の制作を担当する伝統工芸士の實森得応さん。實森さんにとって良い筆とは、使う人が満足する筆。自分の感覚ではなく、使い手の要求に応えた筆」と言います。筆の使い手に寄り添う實森さんの大筆、今年はこの高校に贈られるのか今から楽しみます。



工房に併設されたギャラリーに並ぶ實森さんの作品たち。インテリアアイテムとしても高い評価を得ている

!!!

名匠 實森得応氏の筆を手にするのは誰だ！

書道パフォーマンス甲子園 本戦は 7月28日(日)開幕！

書道パフォーマンス甲子園振興室長 守屋